

校名制定の由来

福島県立喜多方女子高等学校新聞委員会発行

『喜多方女子高新聞』第一五一・一五号

二〇〇〇年三月一日発行

福島県立喜多方東高等学校

『喜女高から東高へ』校名・校章制定のいきさつから

(一部抜粋)

すでに新聞・テレビなどで大々的に報じられているように、本校は四月から「喜多方東高等学校」と名称が変わり、それにもなつて校章も変わる事となった。それらの変更については、

昨年度、校内に「校名・校章制定班」が設置され、桑原瑞夫先生を中心とした数名の先生方が頻りに会議を持って話し合ってきた。

「喜多方東」が

了承されるまで

まず校名については、平成十年十一月に初めての制定班打ち合わせが持たれ、十二月に公募を実施することを決定した。

この公募は在校生や現職

員だけでなく、在校生の保護者や同窓生、本校の旧職員をも対象にして広く校名を募ったもので、総計百四十名の方々から回答を得ることができた。

それらの集計の結果、最も多くの方から候補としてあげられたのが「喜多方東」の名称だった。

「喜多方東」の校名があがった理由としては、「本校が喜多方市街地の東部に位置しているから」とするものが最も多かった。

また本校は市内四校の中でも最も東部にあることから、この校名の簡潔さ、明瞭さといまって支持する声は多かった。

制定班では、アンケート

の結果をもとに話し合い、公募で多く寄せられたものを重視することが大切であると考え、「喜多方東」の名称を第一候補として、県教育庁高校教育課に提出することを決定した。

その後、福島市や郡山市にも「東」と名のつく高校があることを考えてか、県から「東」以外の名称で検討することをうながす意見が寄せられたこともあった。

しかし、制定班ではあくまで「喜びの多い方」と書く素晴らしい地名、その市街地の「東」であるということにこだわりの、また公募で最も支持を得た校名であるという点も再び確認した上で「喜多方東」の案を

学校としては唯一の案として、県にあらためて回答した。

そして、ようやく平成十一年八月に県教育委員会定例会によつて新校名を「喜多方東」とする方針が了承され、翌九月の定例県議会で決定されるに至った。

「喜多方東」の

希望を胸に

校名・校章はともに多くの先生方が時間を割いて議論を重ね、制定に至ったものであり、今後はこれらの表紙をかかげて学校として数十年の歴史を歩むことになる。

すべての物は名前が付いてはじめて具体的なイメージを得、広くそのイメージ

を周囲の人々に呼び起こさせることができる。

アンケートに寄せられた意見のなかに「東は季節としての『春』を示す」「太陽が東から昇るのを『希望』に置きかえて考えたい」といったものがあった。

「東」は朝日の昇る方向であることから、「希望・躍進・発展」などのイメージと結びつくだけでなく、季節としては生命と活力に満ちた春を象徴し、また高校生年代と重なる青春のイメージもあわせ持つ。

「喜多方東」という新校名に寄せられた本校関係者の期待を熱く受け止め、新たな誕生への第一歩を大きく踏み出していきたいものだ。